

2024年活動スローガン「バザー続けて80回 手をつなごう 世界の子ども達のために」

報 告

2024年4月～7月支援分

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

・有志の方よりカパシア郡の学校にトイレ3基

●その他の寄付

・仲島正教様よりエンゼルホームの図書室に図書198冊
 ・朝田花様よりYURIKOエンゼルスクールの図書室に図書195冊

〈国内活動〉

●あおぞら食堂「エンゼル」（子ども食堂）への寄付

・株式会社ヤバケイよりお菓子の寄付
 ・NPO法人武庫川IECO-LABOより活魚の寄付

〈報告〉

●6月9日にボランティアセンターで「楽しいボランティアひろば」を開催しました。活動紹介や手芸品、ノクシカタ刺しゅう製品の展示販売、その他にも様々なワークショップや模擬店などがあり、子どもから大人までみんなで一日楽しく過ごしました。

イベント情報

チャリティコンサート

9/16
(月・祝)

場所：伊丹アイフォニックホール（伊丹市）

時間：開演13:30（開場12:45）

内容：国際エンゼル協会活動紹介・コーラス・ミニライブ

秋のチャリティバザー

10/23
(水)

場所：本協会ボランティアセンター（伊丹市）

時間：10:00～14:00

●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、シャツ、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。ご近所でしたら引き取りに伺います。事務所までご連絡下さい。

☆取り扱っていないもの☆

家具、大型電化製品、自転車、使用済み食器等

編集後記

「ゲンゴロウを飼いたい」と息子が言うので、この春はゲンゴロウ探しに西へ東へ奔走していました。結局ゲンゴロウは見つからなかったのですが、どの本やネットを調べても「昔はこの田んぼにもたくさんいた」と書いてあります。しかし、安定した収穫量確保や品質の維持のための農薬、河川氾濫を防ぐための護岸工事、日本の発展と共にゲンゴロウの生息できる環境が著しく減ってしまいました。今回のゲンゴロウ探索を通じて、息子は「豊かな生活」と「環境保全」の両立の難しさと大切さについて学べたようでした。

2024年 行事予定

7月現在

7月	27日(土)	チャリティバザー	三菱電機総合グラウンド	伊丹市
	29日(月)～8月5日(月)	バングラデシュツアー	バングラデシュ	
9月	16日(月・祝)	チャリティコンサート	伊丹アイフォニックホール	伊丹市
10月	23日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
12月	2日(月)～12月9日(月)	バングラデシュツアー	バングラデシュ	

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円

特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。

郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号

01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよろしくお願いします。

会員数：一般会員 622名

DCEF会員 551名

(7月1日現在)

ANGEL NEW

通巻208号
2024.07

百貨店で買ったリキシャ展示とノクシカタ刺しゅうの展示販売

1991年に私が初めてバングラデシュに行った時のことです。街中には大勢の人があふれており、その間を縫うように走るたくさんのリキシャが誰にもぶつからずに走っていることに驚きました。このリキシャは日本の人力車にヒントを得たと言われています。花や人物、カラフルに絵が描かれたリキシャはバングラデシュの風景にぴったりとマッチしていました。当時、貧しい田舎から出てきた人が真っ先に就く仕事のリキシャの運転手だと聞きました。多くの方がリキシャをレンタルして働いており、レンタル料を支払って残ったお金が収入となるそうです。

暑い中、お米や野菜をいっぱい積んで運ぶ人、家族なのでしょうか、何人も人を乗せ夢中でペダルを踏む運転手を見ていると、生活のため必死で働いているたくましさを感じずにはいられませんでした。

このリキシャを日本の皆さんにも是非見てもらいたいと思い、今から14年前の楽しいボランティアひろばに合わせて、バングラデシュから取り寄せました。その後もバングラデシュフェア、ノクシカタ刺しゅう製品販売など、いろんなところにリキシャを持って行きました。皆さんリキシャと一緒に写真を撮ったり腰かけたりなどされ、楽しみながらバングラデシュを身近に感じていただきました。そんなリキシャも年月を重ねるうちに劣化し、この夏に手放すことになりました。

昨年バングラデシュに行った時、電動のリキシャを見つけました。最近は電動のリキシャがどんどん増えているようです。また、首都ダッカ市内では車があふれており、広い道路でのリキシャの通行が禁止となっています。初めて行った時に見た、空港からエンゼルホームに向かう道中のリキシャを漕ぐ男性の姿や牛を連れて歩いている人の姿。あののどかな景色はもうありません。しかしこれが発展なのでしょう。

いつかこのリキシャは日本の様に観光に使われるかも知れません。少し寂しい気はしますが、発展していくバングラデシュをこれからも支援していきたいと思っています。

代表理事 東村 眞理子

発行者



認定特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
 TEL.072(784) 7504 FAX.072(784) 4608
 Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
 e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp



ホームページ



チャリティコンサート

バングラデシュの子ども達への教育支援のためのチャリティコンサート、今年は9月16日（月・祝）に伊丹アイフォニックホールで行われます。これまでも和太鼓やフラダンス、その他にもたくさんの方が主旨に賛同し、一緒にチャリティコンサートを盛り上げて下さいました。また音楽だけでなく、パネル展示やノクシカタ刺しゅう展示販売、様々な方による講演や当協会のバングラデシュ現地責任者アジズル・バリ氏による活動紹介、当協会の児童養護施設卒業生による体験談などもありました。今年も盛りだくさんの内容を企画しております、皆さん楽しみにしてください。

♪【混声合唱団「エンゼル」のメンバーの想い】♪

私達混声合唱団「エンゼル」は、10代から80代までの幅広い年齢層のボランティアメンバーで構成されています。日々のボランティア活動の合間に美しいハーモニーを奏でられるよう練習しています。コーラスが初めての人やコーラスを楽しみたいという仲間が集まって始まり、今年で結成17年目になりました。初めの頃まとまらなかった声も、練習を重ね、メンバー同士の絆が深まり、今では皆さんにお褒めいただけるほど息ぴったりに合わせられるようになりました。現在チャリティコンサートに向けて猛特訓中です。私達のコーラスがこのコンサートを通じて遠いバングラデシュの子ども達の役に立っていると思うと、大きな喜びに繋がります。みんなで心を一つにして、コンサートに来られた方の心に響く歌を届けたいと思います。



これまでに、ハンドベルや和太鼓といった楽器の演奏やフラやチアなどのダンスグループ、その他にもたくさんの方がチャリティ企画に賛同し、参加して下さいました。



ベル演奏グループ「ティンカーベル」による
ハンドベル&トーンチャイム演奏



「コンプリオキッズ」によるチアリーディング



アルパ奏者「Kayo」による
中南米の民族ハープ・アルパ演奏



「和太鼓はぐるま」による太鼓演奏



「フラカレイラウレラ」によるフラダンス

紙面スペースの都合上、参加いただいた方全員を紹介できていませんが、この他にもたくさんの方にチャリティコンサートにご協力いただいています。



皆様こんにちは。創立40周年おめでとうございます。私はエンゼルホーム出身で、今は日本の東京で働いています。今日は「私がどのようにしてエンゼルホームに入ったのか」「それまでの生活はどんな様子だったのか」また「エンゼルホームを出た後のこと」など、簡単ですがお話をさせていただきます。

私の家庭は大変貧しく、当時は毎日ご飯を食べることも難しい経済状況でした。そのため私は小学校3年生まで学校に行くことができず、毎日働いていました。道路工事を手伝ったり、魚を獲って干し魚にして売ったり、道でタバコやお茶を売ったりしていました。生活の為に小さい頃からずっと働いていたのですが、まわりの友達が学校へ行っているのを見て自分も行きたいと強く思うようになりました。なんとか4年生から学校に行かせてもらえることになりましたが、ペンなどの学用品は買うことができませんでした。まわりの友達も私の家にはお金がないから、私が学校に通い続けることは難しいと思っていました。それでも昼間は「何でも屋」のようなバイトをし、夜になると道路の電灯の下で勉強をしました。電灯は無料だったので何時間でも勉強することが出来ました。そのようにして勉強を続けたことで、5年生の時には学校で一番の成績になりました。しかし、家の経済状況では私が中学校に通い続けることは困難でした。そんな私の将来を心配してくれた学校の先生がエンゼルホームのことを新聞で見て、私に勧めてくれました。そのことがきっかけで、1994年よりエンゼルホームで生活することになりました。エンゼルホームに来てとてもうれしかったことは毎日3食ご飯が食べられることと、仕事をしなくても安心して勉強ができるようになったことです。高校生になり、イギリスの高校に留学できる奨学金制度があることを知り、その試験を受けました。試験の結果、私を含めてバングラデシュから2人の学生がイギリスの高校に留学することができました。イギリスの高校を卒業後、バングラデシュに戻ってバングラデシュの大学に入学しました。そして、在学中に日本の大学で勉強するための奨学金をいただけることになり、大学3年生から大分県の立命館アジア太平洋大学に編入し、卒業しました。

大学卒業後は東京で会社を立ち上げ、現在は12名の社員と共に経営コンサルタントなどの仕事をしています。2年前から東京で飲食店も開店しました。今、私がこうして仕事をして幸せに生活を送ることができているのは、あの時いただいた皆様からのサポートのおかげです。勉強ができるだけでなく、良い機会に出会えることは人生においてとても重要なことです。私は皆様と出会えて本当に幸せです。日本の皆様には何と言って良いのかわからないほど感謝しています。本当にありがとうございます。



いました。バングラデシュには私のような貧しい子ども達が今もたくさんいます。彼らは、ほんの少しのサポートがあれば頑張って勉強を続けることができます。そして彼らが将来良い仕事にめぐり合い、自分の家族をしっかりサポートすることができたら、バングラデシュの社会はきっと今よりずっと良くなるはずです。皆様のサポートでたくさんの貧しい学生が勉強出来ることに心から感謝しています。これからもバングラデシュの子ども達のためにどうぞよろしくお願いします。

エムダット・ホック

2022年国際エンゼル協会創立40周年記念式典にて講演してくれたエンゼルホーム卒業生、エムダット・ホック君のスピーチの内容要約です。